

私達の生活と水質汚染

沖縄県

宜野湾市立真志喜中学校 二年 山内 結愛

私達が生活する上で、水というのはとても欠かせない存在だ。今、そんな世界の水の多くが汚染されていることを知っているだろうか。これを「水質汚染」といい、河川や湖沼、海洋などの水質が悪化することだ。この問題が起こってしまうと、今後水道水が飲めなくなったり、海産物が食べられなくなるなど、私達の生活に影響する可能性があるのだ。しかし、この問題について、私達日本人は危機感を持っていない人が大半だろう。なぜなら、日本はきれいな水が当たり前のように飲めている国だからだ。では、世界に目を向けるとどうだろう。実は世界の八人に一人が飲めていない状態なのだ。

なぜ、今世界では深刻な「水質汚染」が起きているのだろうか。

水質汚染の原因は主に三つが挙げられる。

一つ目は、工場や農業などからの「産業排水」だ。この問題は、かつて日本でも「水俣病」などの原因となり、公害として人々に恐れられた。そんな影響もあり、今では規制が強化され、水質汚染の原因にはあまりならなくなっている。

二つ目は、台所やトイレ、風呂、洗濯など日常生活で発生する「生活排水」だ。また、水の汚れ具合を表す、「BOD」というものがあり、微生物が水の汚れを分解するとき使う酸素の量を表している。つまり、BODが高い程、酸素が使われ、魚の窒息死に繋がるのだ。身近にある、BODが高い生活排水の例としては、使用済み天ぷら油がある。この油大匙一杯のBODが三〇グラムであり、この量を魚が住めるぐらいに水で薄めるには、風呂おけ約二〇杯（六〇〇リットル）の量が必要となるのだ。このことから、私達の生活が水質汚染に関係していることがよく分かる。

三つ目は、水を直接汚染していない原因もある。それは、水温が上昇し、植物プランクトンの増殖や生態系の悪化などが起き、水質汚染にも

繋がる、「地球温暖化」だ。

それでは、水質汚染による影響は、日本でもあるのだろうか。日本ではあまりない印象だが、実際は私が住んでいる沖縄は、三年程前からある問題に直面している。二〇二〇年の四月、米軍兵隊が発癌性の恐れがある、「PFOS（ペーフオス）」を含む泡消泡剤を、宜野湾市普天間飛行場から下水に放出し、基地周辺の川に大量に流出してしまったというものだ。これが起きた直後の川には泡が立ち込めていた。さらに、二〇二二年の十月に公表された、県内のPFOSの血中濃度検査では、検査を受けた三八七人中二七人が「健康に害が出る恐れがある」レベルであった。その中には、お腹に子供を身ごもっている人もおり、生まれた子にも影響が出てしまう可能性があると分かったのだ。このようなことが実際に身の回りに起きているのだ。

これ以上水質汚染を悪化させないために、私達が出来ることが何だろうか。それは、原因の中でも一番深刻な「生活排水」を防ぐことだ。始めに、シャンプーや台所洗剤を使い過ぎず、適量を守ることだ。次に、外食では食べきれぬ分だけ注文したり、買い物でも食べきれぬ分だけ買うことだ。これは、フードロス削減にも繋がる。最後に、油汚れをしっかり拭き取ることだ。油は再利用したり、新聞紙に捨てたりなど、油の処理に気を付けることが大切である。以上に挙げたことは、誰でも実践できる対応策である。

水質汚染という問題は、私達の何気ない行動が大きな原因となる。そして、世界には水質汚染で苦しんでいる人がいる、という現状をまずはみんなに知ってもらいたい。それを知った上で、決して他人事ではないと一人一人が自覚し、これからの行動を意識することこそ、水質汚染の未来を変える最大のパワーになるのだ。